

箕谷少年野球部の歴史と現在

2006年1月

箕谷少年野球部は、箕谷小学校開校の翌年である昭和49年に、当時谷上小学校の生徒を中心とした北神チームの指導者の支援を得て創部され、創部30年を越える歴史と伝統のある少年野球チームです。

現在は、箕谷小・桂木小の子供を中心に構成されていますが、谷上小・甲緑小の選手が在籍したこともあります。

残念ながら創設期の詳細は不明ですが、チーム立ち上げにはそれ相当の苦労があったことと推察されます。

平成5年頃、一時期強い時代があり、卒部生の中から甲子園出場者も出ているとのことですが、その後は選手不足、指導者不足等で連戦連敗の苦しい時代が続いていたそうです。

しかし、兵庫高校を甲子園に導いた経験のある常德先生という素晴らしい大物指導者を平成7年に迎え、徐々に力をつけ、平成12年あたりから急激に盛返し平成14年には平本監督の下、天王ダム杯優勝、新緑大会準優勝と対外試合での栄光を獲得し、その後平成16年には内木場監督率いるチームが長い間の悲願であった全神戸選手権大会優勝という快挙を成し遂げ、続く平成17年も内木場監督の下で新緑大会を制し、今や他リーグの強豪チームからも練習試合の申し出を受けるチームにまで成長しました。

これはもちろん常德先生のご指導によるところではありますが、常德先生招聘に尽力された小柳さん、現在も顧問としてご支援を頂いている畑野さん、井尻さん、他大勢の諸先輩方々のご苦労を見すごすわけにはいきません。献身的にご指導いただいた常德先生は病に伏され全神戸優勝の報告は入院先で聞かれることとなりましたが、その年の瀬に帰らぬ人となりました。

現在、箕谷少年野球部はオール有野台、唐櫃、花山、北神と共に5チームで甲北地区少年野球連盟を組織し、リーグ内で、神戸新聞杯前期リーグ戦、春季大会、夏季大会、甲北杯リーグ戦、秋季大会、新人戦等の試合を行っています。

北区には甲北地区少年野球連盟の他に、神戸北少年野球連盟(甲緑、桜の宮北鈴蘭、広陵、山の街、南山、新北鈴、小郡東、山田、ひよどり合、北町松が枝の10チーム)と神戸北スポーツ親交会少年野球(大池、鈴蘭台、北五葉、南五葉第二、星和台、泉台、君影の7チーム)の計3団体があり北リーグを構成しています。

さらに神戸市東部の東リーグと西部の西リーグ、計3リーグ(約53チーム)で全神戸軟式少年野球連盟が組織されています。

この頂点を極めるのが平成16年に優勝した全神戸選手権大会(所謂オール神戸)です。特定のOB父兄が、永年に亘って指導と運営に当たる少年野球チームが多い中であって、箕谷少年野球部は、故常德先生の豊富なご経験から子供達の将来を重視されたご指導を受け継ぎ、OB指導者と現役選手父兄による合議制自主運営で成り立っています。

このことは、子供たちを主体に据えることを目的とする「少年期の健全な心身の育成」を実践、維持し得る体制であって、箕谷少年野球部の大いなる「強み」と言っても過言ではないと思えます。

箕谷少年野球部で子供達が野球を通して強い体と忘れ得ぬ感激、思い出を獲得できるよう、ご父兄の皆様の積極的な参画を今後ともお願い申し上げます。

今後益々飛躍して行こう、指導者、父兄、選手が一同となって頑張っております。